


銅・アルミレポート

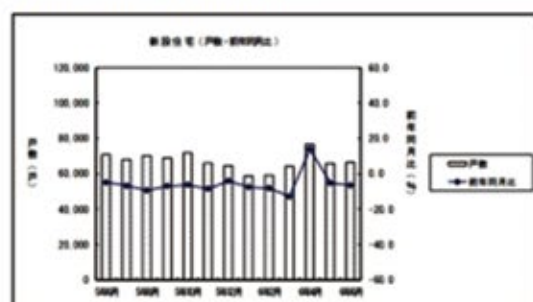
橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



7月の鋼の概況および8月の見通し (2)

予想レンジ		
LMEセトル	8,500-9,500ドル	▲
建値	135万円-145万円	▲
為替	112円~142円	円高
(1か月間TTM)		

新設住宅 (戸数・前年同月比)



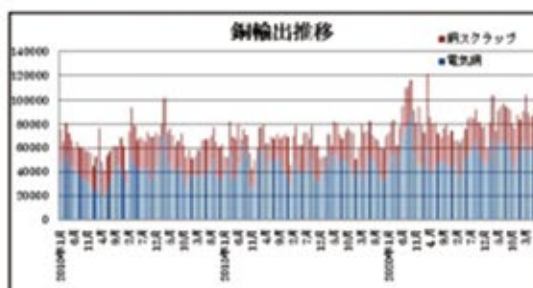
◆貿易関連指標

【輸出】

電気銅は-5.4%の6万1,367 t。
スクラップは-11.4%の2万6,616 t。

輸出	4月	5月	6月
電気銅	5万4350 t	5万7046 t	6万1367 t
前年比	+22.5%	-6.3%	-5.4%
スクラップ	3万5128 t	2万8788 t	2万6616 t
前年比	+16.3%	-6.2%	-11.4%

輸出推移

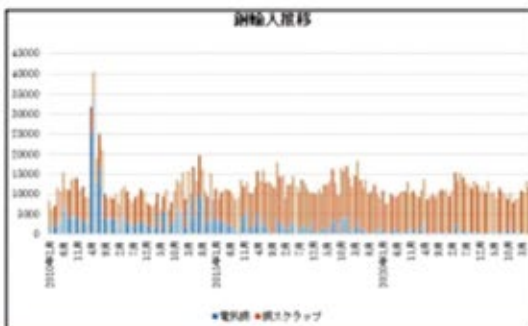


【輸入】

電気銅は-77.2%の250 t。
スクラップは+36.7%の1万3,145 t。

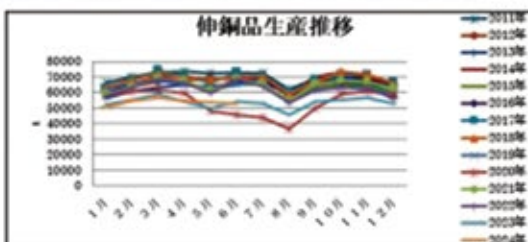
輸入	4月	5月	6月
電気銅	252 t	250 t	229 t
前年比	+7.7%	-77.2%	-48.4%
スクラップ	1万94 t	1万3145 t	1万1546 t
前年比	+1.9%	+36.7%	+35.1%

輸入推移



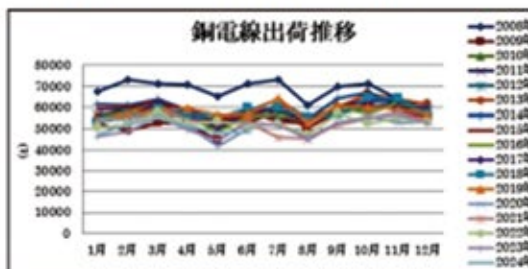
【伸銅品生産】

6月伸銅品生産量速報値は5万2,880トン、前年同月比2.6%減少した。2か月ぶりにマイナスに戻した。



【日本電線工業会発の出荷速報(推定)】

前年比-10.5%の48,300 t。
内訳は国内が-14.5%、輸出が+258.1%。



(次頁へつづく)

■国内概況まとめ

【伸銅品生産】

2024年6月の伸銅品の生産量は、14品目中6品目が前年同月実績を上回った。6月に再び前年同月実績を下回ったが、カレンダーの都合から、6月の土日が多く、稼働日数が20日と少なかったことが一因にあり、それを加味すると回復気味であるとした。ただ、まだ本格的な回復になく、不安定な要因もある。自動車の生産が、伸銅品の回復のけん引役になっているが、中国などで完成車の生産が減っているのが弱含みとなっている。また、半導体もデータセンター向けのストレージ関係の一部の海外生産の回復が見られるが、情報家電関係はまだ軟調である。ルームエアコンは、中大型が低調である。特に人手不足により大型エアコンの設置の遅れから、銅管需要が伸び悩む要因となっている。

【見通し】

【自動車】

6月の自動車生産が-9.7%。6月国内販売台数が前年比+3.9%。販売が6か月振りに増加、生産が再び減少。トヨタが新たに国交省からは正勸告を受けておりその影響に危機。

【伸銅品生産】

2024年6月の伸銅品の生産量は、14品目中6品目が前年同月実績を上回った。

6月に再び前年同月実績を下回ったが、カレンダーの都合から、6月の土日が多く、稼働日数が20日と少なかったことが一因にあり、それを加味すると回復気味であるとした。ただ、まだ本格的な回復になく、不安定な要因もある。自動車の生産が、伸銅品の回復のけん引役になっているが、中国などで完成車の生産が減っているのが弱含みとなっている。また、半導体もデータセンター向けのストレージ関係の一部の海外生産の回復が見られるが、情報家電関係はまだ軟調である。ルームエアコンは、中大型が低調である。特に人

手不足により大型エアコンの設置の遅れから、銅管需要が伸び悩む要因となっている。

【電線】

6か月ぶり減少、今後に注視。

【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】銅建値が157万から143万へ急落。前月在庫は伸銅品生産減、発生減から在庫薄だが相場の急落により売れず買えずの膠着状態。需要面についても膠着状態。伸銅品生産量は再びマイナス。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。

①米FRBの金融政策

7月30-31日の連邦公開市場委員会(FOMC)で金利据え置きを決定、7月の雇用統計によると、非農業部門雇用者数は前月比11万4,000人増となり予想を下回った。失業率は2021年9月以来約3年ぶりの高水準となる4.3%に上昇。労働市場の悪化や景気後退への懸念が高まった。

FRB当局者が7月の雇用統計の内容を知っていたら、7月会合で0.25%ポイントの利下げを決定していたはずだとの意見もあり9月の利下げはほぼ確定、むしろ下げ幅に注目がいくのではないかと。

②日銀の金融政策

日銀は7月30日、31日に金融政策決定会合を開催し、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を、0-0.1%程度から0.25%程度に引き上げることを決定した。背景には、政府の円安是正の構えに同調したことがある。7月上旬に政府は為替介入に動いた可能性があるため、その後詰めとして日銀は利上げをしたのではないかと。ただドル円は想定を超えたスピードで円高に向かっておりしばらく利上げはないのでは。

これらを踏まえた今月の銅価格は8,000-9,500ドル(セツル)との予想。

ドル円値は135円~145円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては112万-142万円程度と予測している。

(「7月の銅の概況および8月の見通し」おわり)

LME公式値週間推移 7月29日~8月2日(現地)

